
寒い夏

mamechan

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

寒い夏

【Nコード】

N8889H

【作者名】

mamechan

【あらすじ】

昭和十八年呉の軍港は賑やかで、その中つつましく毎日お父さんの帰還を港の見える小さな家で待ち望んでいる家族の話。

昭和十八年、よっちゃん十歳の頃のお話です。

よっちゃんは広島呉で生まれ、家族と仲良く暮らしていました。

お父さんは海軍さんで「船が沈んでも泳いで帰ってくるわ」といつも笑顔で出かけます。

お母さんは優しくて物静かな人だったので、よっちゃんも兄弟たちも大好きでした。

お父さんの言いつけ通り、手伝いをし、自分の係になっている用事を済

ませ、めいめい兄弟達の面倒をみるのでした。

よっちゃん達の住む家は山の途中のにあって、呉の軍港がよく見えます。兄弟達は、どの

船にお父さんが乗っているのかよく知っているので戦艦や駆逐艦が寄港する度に家の窓か

ら「お母さん、お父さん帰ってきたで」と言って大はしやぎ、家族揃って港まで迎え

に行く事が何より楽しみだったのです。

よっちゃんは四人兄弟の二番目でお兄ちゃんの後へいつも、くっついていました。下の弟

や妹を背中に負ぶさり、学校から帰ると必ず、お兄ちゃんに勉強を見てもらいます。

お父さんが海の上で戦っている事を、お兄ちゃんは誇りに思い、よっちゃんは

いつしか、お兄ちゃんがお父さんに見えたりして頼もしく、余計にくっついていたのす。

もうそろそろ夏の日差しになりかけた頃、一通の手紙が、よっちゃんの家に届きました。

お父さんからでした。手紙の内容は（帰る予定がもう少し遅れる。みなに土産を買ってあ

るので楽しみにして、お母さんの手伝いをよくするように）と書き添えてありました。

兄とよっちゃんは久しぶりに見るお父さんからの手紙を読んで貰い、自分たちの名前が書

かれてあるのを覗きこんでは、お父さんが帰ってきたかのように喜んだのでした。

ある日、学校から帰った子供たちは、言われた通り、お母さんのお手伝いをし、宿題を済

ませ、ワイワイ言いながらご飯を食べて、いつもと同じ日を送っていたのです。

皆が寝る支度をして、よっちゃんもお布団の中へと入ったとき、

てないよ。」とお母さんに言われ「あっそうや、雨戸雨戸忘れてた」

よっちゃんは慌てて庭先の雨戸を閉めようとした時、スツと目の前を白い軍服に身を包

み、腰に軍刀をさげたお父さんが家の中へ入ってきたのです。

よっちゃんは突然の事に始めは声が出ませんでしたか、灯りを消した家の中をバタバタと

走り、「お父さんが帰ってきはった！お父さんが帰ってきはった！」と父の姿を探して

お母さんの所まで走りました。お兄ちゃんは灯りをつけながら

父さんはまだ海の上やぞ、それにこないな時間に黙って帰ってきはんわ。」と落ち着く

ように言いました。

「でも、今や、雨戸閉めてたら白い服きて入ってきはってん。私の前をな、入ってきはっ

てんて」と真剣に言いました。

さすがにお兄ちゃんも真剣なよっちゃんの態度に本当かも知れない。だとしたら　こんな

嬉しい事はない、と兄弟達で家の中を探し回ったのです。

お母さんはじっと座り、何も言わず黙って、子供たちの様子を眺めていました。

夏の終わり、　よっちゃんの家の手紙が届きました。兄弟達は何の手紙か、お父さん

からかもしれないとはしゃぎ、自分の事が書かれてるかも知れないと心躍らせ、立ち尽く

すお母さんの手元を我も我もと覗きこみます。

「お母さんはよ読んで！何て書いてあるの　なあお父さんからか？何て何て？」

お兄ちゃんとふざけ合いながら、よっちゃんはお母さんの顔を見上げました。

二人が見たお母さんの顔にはいつもの笑顔どころか何の表情もない恐ろしい顔でした。

明るい家の中が急に真っ暗になり自分は何を見上げているのか。よっちゃんは解らなくな

るくらい生まれて初めて恐怖を感じたのです。

（後書き）

戦争は何の役にも立たないと言います。私もそうだと思います。戦争は家族を引き裂き、不要な悲しみや怒りだけを産みます。しかし、孫である私の命は、祖父である軍人が赴任した先での縁で此処にあります。複雑な気持ちの中で祖父と祖母に思いをさせ、書きました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8889h/>

寒い夏

2011年1月15日14時59分発行